

眼科摘要

四

富士川文庫



496.2

Ga-2

4

F 4
力-84



眼球結膜焮衝

反	老	肉	瘰	○	骨	○	肉	結	產	膜
人	人	反	攣	結	腫	蜂	膿	膜	物	潰
外	外		性	膜		窠	汁	下		瘍
反	反		內	枯		織	泌	蜂		
		眼	反	燥	眼	新	別	窠	結	結
		瞼		及	翼	生	或	織	膜	膜
由		外		剥			顆	中	水	軟
他		反	麻	脫		贅	粒	純	疱	化
因			痺		角	肉	狀	水		
外			樣		膜	々	結	溢	結	○
反		膜	內	眼	眼	腫	膜	出	膜	○
		樣	反	瞼	球	愈	煖	膿	煖	煖
		煖		內	合	節	衡	瘡	衡	滲
一		衡	成	反	曇	及	合	結	滲	出
部		外	形		暗	軟	併	膜		
外		反						恣		

卷之五

强膜炊衝

水樣滲出
強膜軟化
膨脹
突出
強膜化膿
強膜及脫垂
強膜硬化

艮斗商要

卷四

目錄

1

臨湖山房藏

496.2
Ga-2
4

No. 884

准稟春孟卯丁年二應慶

佐藤舜海
倉次元意譯

眼科摘要

臨湖山房藏

結稠厚
強膜創

角膜煥衝

疹狀角膜
實實煥衝
滲出物者

冒角

寒角膜煥衝

角膜炎後面之滲出

角膜潰瘍

早越毘篤粒母剥脫
角膜軟化及壞

死

角膜曇暗

角膜炎後面曇暗
天稟症

角膜炎組織曇暗

膿樣曇及繼發症

癰痕曇暗

卷之六

角膜穿鑿

角膜貌僂屈

紅彩脫出

假角膜成形

全角膜炎
一部角膜炎
不全角膜炎

角膜層損傷

異物傷
剝傷及傷
刀傷

角膜主狀突起

紅彩煥衝

慢性紅彩
梅毒性紅彩
胃寒紅彩

瞳孔變形及數瞳孔

紅彩之去

眼科摘要卷之四目錄尾

荷蘭
朋百般默兒埕兒法爾篤鈔

佐藤舜海 閱

倉次元意譯

第九屬

眼球結膜焮衝

此症ハ眼疾中頗ル多キ一症ナリ。始メハ一處ニ起リ。而シテ諸方ニ蔓延ス。凡ソ始メ強膜ノ結膜ニ激衝ヲ生シ。是レヨリシテ眼瞼ノ結膜ニ及ホシ。終ニ角膜ヲ襲フ者多シ。若シ眼瞼ノ結膜上ニ始

レハ、強膜ニ及ホス者ハ稀レナリ。余嘗テ論シテ云ク、病ハ脉管ノ連行ニ從テ感傷セリ。故ニ結膜早ク既ニ焮衝ニ罹レハ則チ是レヨリ分布スル處ノ脉管ヲ傳ヘテ、焮衝症蔓延シ易シ。

顯症

病初ハ一處ノ微糸血管膨脹シ。是ヨリ蔓延ス。乃チ結膜滑澤ヲ失ヒ、曇暗トナリ腫脹ス。殊ニ角膜上ニアル結膜ハ、曇暗靄霧ノ如シ。赤色始メハ著シカラスト雖モ、微糸血管漸ヲ以テ廣大シ。其數モ亦々増加ス。今モ微細ノ分歧嘗テ見ル可ラサ

ル者著ク顯レテ赤線ノ如ク。遂ニハ廣大シテ血脉ノ如シ。但シ大脉管ノ本系ハ末稍ニ至ルマテ辨別シ得ルナリ。而シテ其本系ヨリ分歧シ。且ツ接ロセス。カランス狀ニ運行スル者アリ。凡ソ脉管角膜ノ邊緣ニ至レハ、蟠屈シテ以テ角膜ノ邊緣狀ヲナス。故ニ顯微鏡ヲ以テ是レヲ見レハ、或ハ美麗可愛狀ヲ現ス者アリ。或ハ角膜邊緣ニ當テ分歧シ。極小細管トナリ。一半ハ角膜ニ入リ。一半ハ其邊緣ニ終ル。而シテ角膜ニ入ル者ハ、其中心ニ延テ、乃チ銳角ヲ以テ相接ロスル者ナリ。病者温

熱燔灼セラ、カ如キヲ覺ヘ。光輝ニ遇ヘハ、知覺甚シク或ハ羞明ス。通例疼痛ヲ覺ヘ。是ヲ諭ルニ、恰モ沙塵ヲ眼中ニ入ル、カ如シ。其稍重劇ナル者ハ、此ノ如キ諸症モ亦タ増大ス。粘膜ノ分泌頗ル増進シ。而シテ酷厲ノ涙汁ニ膿ヲ混スル者ヲ流ス。時アリテ瞬シ。時ニハ眼瞼痙ヲ發シ。是レニ加フルニ羞明ヲ兼併ス。視力妨ケラル、ト少ク。時ニハ靄霧ヲ見。時ニハ變色ヲ見ル。每宵夜間多クハ發熱ス。時ニハ羞明全ク無キ者アリ。

診識

脉管永ク線狀ヲ成シ。屈曲回轉シテ。而シテ眼ノ運轉ニ從テ動揺ス。曇暗モ亦然リ。轉動ノ疼痛ト羞明ハ、病狀ニ比スレハ微ナリ。知覺銳敏ナル體格ニハ、刺衝熱ヲ兼併ス。時ニハ腸胃症ヲ顯ス。此症ハ、眼中他部ノ焮衝ヲ合併シ易キノ性頗ル大ナリ。

區別

總論ニ舉ルカ如ク。此焮衝モ亦タ區別スヘシ。

經過

多クハ慢性トス。

原因

外傷、空氣ノ壓力、及ヒ器械様ノ原因、又内因ニ出ル者アリ、則腺病、痛風、聖京屈、癩麻質、淋疾等ナリ、轉歸

其一 解散

炊衝ノ諸症漸ク減シ、赤色青色ニ變シ、微糸血管收縮シ、角膜本然ノ滑澤ニ復シ、淚器常度ヲ得、而ノ分泌其常ヲ得レハ、則テ全治ナリ、但シ反復ノ性頗ル多シ、

其二 脉管廣大

炊衝諸症減シ、微糸血管ハ收縮スルト雖モ、血脉管稍膨大ス、帶青赤色トナリ、回轉屈曲シテ、角膜ノ邊ニ走リ、乃チ分歧シテ是ヨリ反ル、視力稍碍ラレ、時ニハ飛蟲ノ形ヲ見ル、體格惡液質ナル者ハ、此症ヲ速ニ生シ、其狀全ク麻痺症ヲ顯ス、其三 垂簾翳

即チ稠厚ノ皮肉ヲ生スル者ナリ、此轉歸ヲ致ス者稀レナリ、是レ其實ハ、脉管大小トナク、悉ク廣大スルヲ著シクシテ、角膜ノ邊緣ニ届リ、乃チ分歧シテ諸方ヨリ角膜ヲ被覆シ、以テ暗赤色ノ皮

肉ヲ顯ス者ナリ。瞳孔ヲ被覆スレハ失明シ、一切ノ諸物皆赤霧中ニアルカ如ク、僅ニ明暗ヲ分ツノミ、而シテ病者其脉管ヲ自ラ視テ、眼中異物アルカ如キヲ覺フ。

此症惡液質ノ人數年結膜焮衝ヲ數回反復シテ以テ生スル者ナリ。諭ヘハ痛風、癩麻質、腺病、聖京屈、睫毛倒生等ノ如シ。

其四 眼球結膜潰瘍

此轉歸ハ多ク見ル處ノ一症ナリ。殊ニ角膜ニ潰瘍ヲ致ス。其潰瘍ヲ分テ二トナス。一ハ弛緩性、一

ハ焮衝性ナリ。其焮衝性、静脉腎張ヲ兼併セサル者ヲ更ニ小別シテ二トナス。若シ静脉腎張ヲ兼併スル者ハ、是レヲ静脉性潰瘍ト云ヒ。潰瘍ノ周圍ニ恣肉ヲ生スル者ハ、是レヲ海綿樣焮衝性ト名ツク。凡ソ角膜潰瘍ノ周圍多クハ曇暗ヲナス。殊ニ焮衝ニ於テ是レヲ顯ス。此症屢轉シテ弛緩性ニ變ス。

焮衝性潰瘍ハ病初ヨリ是レヲ辨別シ易シ。弛緩性ハ病初是レヲ辨シ難シ。乃チ潰瘍外表ニアリテ、形チ圓ク透明ニシテ、恰モ硝子ノ陷没ヲナス

カ如キ狀ヲナス、故ニ是レヲ側視スルニ非レハ
辨別シ難シ、而シテ羞明疼痛共ニナク、視力ヲ煩サ
ス、經過緩慢ニシテ、焮衝ヲ繼發シ、遂ニハ蔓延シ
テ角膜ヲ穿ツニ届ル、其直チニ角膜ヲ穿ツニ至
ラサルモ、是レヲ媒發スル性アリ、若シ全治スル
モ雲翳ヲ遺ス。

結膜潰瘍ハ、多クハ疱疹ノ化膿ニ轉シ、自潰ニ由
テ繼發スル者ナリ。

其五 結膜軟化

角膜ノ結膜上、及ヒ角膜邊緣ニ多ク發ス、其所ノ

結膜膨脹シ、混濁粗糙ニシテ雲翳ノ如シ、凡ソ結
膜角膜ノ周圍ニ於テ、甚シク膨脹シ、而シテ酷厲ノ
分泌、又シク留連シテ眼中ヲ襲エハ、乃チ此轉歸
ヲ致ス。

其六 焮衝滲出之產物

甲 結膜ノ水泡

此轉歸ハ、頗ル多ク生スル者ナリ、
水泡ハ、小ニシテ圓ク、豆形ナル者多ク、是レヨ
リ大ナル者モ亦タナシトセス、泡中明汁ヲ含
ミ、角膜ノ周圍ニ生ス、他所ニ生スルハ稀レナ

リ、通例一箇二箇ヲ生シ、多ク生スルモ亦稀レ
ナリ、脉管銳角ヲナシテ此泡中ニ入ル、或ハ水
泡強膜上ニ發スル者アリ、急性焮衝、惡液質ニ
在テハ、明汁化シテ膿トナリ、泡モ亦タ轉シテ
疹トナル、即チ疼痛壓スカ如ク、知覺亢進シテ、
通曉眠リ難キノ症ヲ顯ス、惡液質殊ニ腺病ハ、
此轉歸ヲ致シ易シ。

乙 結膜ノ膿泡

此症ハ、只劇甚焮衝ニ、產物ヲ結膜下ニ滲出シ
テ以テ生スル者ナリ、即チ其滲出物化シテ膿

トナリ、以テ膿瘡ヲ生シ、遂ニ破レテ膿汁ヲ漏
泄ス。

丙 結膜下ノ蜂窠織中ニ、血水ノ滲出スル者

結膜腫脹シテ堅厚トナリ、其色或ハ暗黒、或ハ
赤色ニシテ、其部ヲ剖開スレハ、乃チ赤水ヲ泄
ス、凡ソ其腫脹、角膜邊緣ヲ廻テ尤モ甚シク、其
狀恰モ一皴ヲ以テ角膜ヲ圍ハ如シ、多クハ羞
明、疼痛アリテ、浮腫ス、痛風、癩麻質、淋疾、焮衝、此
轉歸ノ誘因トナル。

丁 結膜下蜂窠織中、純水滲出

此症、或ハ水腫ノ合併病トナリ來リ、或ハ虛實
兩性ノ聖京屈痛風腺病ノ合併トナリ來ル。

戊 結膜恣肉、膿汁泌別ヲ兼併スル者、若クハ

顆粒狀結膜焮衝ヲ合併スル者。

此症、多キヲ凡ソ結膜焮衝ヲ五分シテ、此轉歸
ヲ致ス者其一ニ居ル。結膜ノ表面焮衝ニ感シ
テ、顆粒ヲ數發スル者ナリ。其粒至小ニシテ帶
白黃色、或ハ赤色ニシテ泡ヲナシ。其質硬キ
實ニ粘膜核ノ硬結ニ似テ、其中白色ノ物ヲ含
ムナリ。而ノ其泡稀ニハ白色ニ變シ、或ハ白

色ノ線點ヲ顯ス者ナリ。此者ノ多ク發スル所
ハ、眼球ト眼瞼ト相接スル所ノ皺間ノ結膜中
ニアリ。而ノ結膜腎脹シ、其隆起、漸漸赤色暗色
トナリ。益腎脹シテ粟粒狀ヲナシ、膿ヲ泌別ス。
病處ハ、知覺銳敏ニシテ、其質柔軟ナリ。動モス、
レハ出血ス。此故ニ其性ヲ失ヒ海綿狀、或ハ軟
骨狀ニ變ス。淚阜膨脹シ、強膜角膜ノ結膜暗赤
ノ脈管ヲ顯ス。眼ノ周圍壓迫ヲ覺エ、羞明アリ
テ淚ヲ流シ、淚中雲母ヲ含ム。泌別物速ニ稠厚
透明トナリ。其質酷厲ニシテ頗ル膿ニ似タリ。

今粟粒或ハ速ニ増加シ。或ハ漸漸増加ス。疼痛羞明。泌別及ヒ每霄眼瞼粘連等從テ増進ス。赤色暗色ニ變シ。眼瞼赤色腫脹ス。殊ニ上瞼ノ腫甚タシ。強膜ノ結膜細網狀ヲ顯シ。其網蔓延シテ遂ニ角膜ノ中心ニ及ホス。或ハ結膜腫脹シテ暗赤ノ皺紋ヲ。眼球眼瞼ノ際ニアル所ノ結膜ニ突張スル者アリ。而ノ時時遲速アリト雖モ。恣肉萌生シテ遂ニ角膜ニ及ホス。眼球甚シク腫脹シ。殊ニ上瞼頗ル是レニ罹リ易ク。眼瞼帶青赤色ニ變シ。容易ニ是レヲ開キ難シ。頭痛。

眼痛アリテ。羞明劇シク。眼瞼ノ下タニ膿汁夥シク泌別シ。其色混濁稠厚ナリ。今速ニ失明レ。以テ角膜軟化シ。其所陷歿シテ穿孔シ。或ハ是レニ替ヘテ角膜上ニ大潰瘍ヲ生スル者アリ。是レヨリ繼發スル所ノ諸症ハ。角膜壞死。白斑。紅彩變形。硝子體水晶體ノ脱出。灰白内障翳。葡萄腫。網膜麻痺。及ヒ黑障眼是レナリ。此炊衝ハ粘液核ト。メーボトハ核ハ。大概此災害ヲ免ル。モナリ。以上論スル所ノ症狀ハ。總テ此炊衝症ニ通症トナスヘシ。論ハハハ眼

焮衝、痛風性眼、而ノ其概載スル所、症狀ハ、最
 焮衝ノ如シ、
 モ緊要ナル顯症ヲ舉ルノミ、皆一時ニ顯ル、
 者ニ非ス、一ハ以テ緩慢ナル經過中ニ顯レ、一
 ハ以テ繼發症トナリ現ル、者ナリ、凡ソ泌別
 スル所ノ液ハ、漸ク化シテ傳染性ニ變ス、第二
 期三期ニ當テ、傳染性ニ化ス、然レモ焮衝ノ性
 ニ由テ、傳染性ヲ起ス者ニシテ、疾病ノ本原ヨ
 リ、傳染性ヲ含ム者ニ非ス、凡ソ此傳染氣ハ、空
 氣ヨリ傳ル者ニ非ス、病毒直クニ觸レテ是レ
 ニ染ム、「ホイニス」人云ク、三日ヲ歷レハ、其分泌
名

物、傳染氣ヲ失フト、又且ツ云ク、病根、傳染ヲ成
 シ易シト、

己 蜂窠織新生

此症ハ漸漸ニ生ス、而シテ刺衝經久ナルニ由テ
 蔓延ス、凡ソ形狀ヲ以テ分テハ、左ノ如シ、
 其一 ポリーペン贅肉肉腫 阜腫是

其 「ホリーペン」ハ、息肉ニシテ根帶アリ、恣縱蜂窠
 織ヨリ成ル、而シテ無數ノ微糸血管是レニ纏フ、
 此物多クハ、弛緩質、腺質ノ人、器械樣、舍密樣ノ
 傷害ニ遇ヘハ乃チ生ス、贅肉、肉腫モ、亦タ恣縱

蜂窠織ヨリ成ル。然レ其根脚圓クシテ滑澤ナク、或ハ腫面粗糙ニシテ粟起スル者アリ、此者慢性眼焮衝ニ繼發ス。又タ「ホリ」ベシノ如ク發起スル者アリ、時ニハ數腫繼發シテ眼ノ大部ヲ侵ス者アリ。

其二 結節腫、及ヒ軟骨腫

結節腫ハ、小ニシテ白色無痛ノ腫レナリ、多クハ角膜ノ邊緣ニ發ス。聖京屈焮衝ニ由テ起ル。軟骨腫ハ、稍大ニシテ硬ク、其質軟骨ノ如ク、靜脈腫ノ如キ、血脈管ニテ纏ワル、其發スル甚々

緩慢ニシテ、或ハ天稟是レヲ生スル者アリ、凡ソ此腫ハ纖維ヨリ成ル。試ミニ其纖維ヲ解クニ、容易ク割截スヘカラス、而メ漸漸軟骨狀ニ變ス。

其三 眼翼即垂簾翳

甚々稀レナリ、一種ノ病狀ニシテ、眼ノ前面ノ結膜肥大シ、蜂窠織トナリ、血脈ヲ通シテ以テ強膜ニ緊連スル者ナリ、其形ナ三角ニレテ、尖端角膜ニ向フ、多クハ内眥ニ生ス、時ニハ内眥外眥兩方ヨリ併發スル者アリ、稀レニハ四方

ヨリ發露スル者アリ。此四方ヨリ生スル者ハ
眼ノ中央ニ於テハ、十字形ヲナシテ經過ス。若
シ夫レ此物、瞳孔ヲ被覆スレハ、視力ヲ碍ク。此
質ハ薄キヲ常トス。又タ厚クシテ血脈管ヲ多
ク具フル者アリ。

原因ハ、慢性癰衝ナリ。大人ニ於テハ生スルヲ稀也。
其四 眼瞼眼球愈合

此症ハ、眼瞼結膜ト眼球結膜トノ際ニ、多脈ノ
硬キ膜ヲ新クニ生シ、延テ眼球ヨリ眼瞼ノ方
ニ蔓延シ、漸ク堅硬トナリ、滑澤ニシテ灰白色ニ

變スル者ナリ。凡ソ其生スル所ト、膜ノ性ニ隨

ヒ名目ヲ異ニス。譬ヘハ前膜、後膜、全膜、一部膜

ニシテ、其所或ハ強膜ニ生シテ外眥ト愈合ス

ル者、是レヲ名ケテ「シニカルチス」エキステル

ミス。ト云フ。其内眥ニ生合スル者ヲ「シニカニ

チス」イニテルニス。ト云フ。

此ノ如ク新膜ヲ生スレハ、眼ノ運轉ヲ碍ケ、殊

ニ其新膜、靨帶狀ヲナシテ、角膜ニ粘連スレハ、

運轉彌々自由ナラス。

庚

結膜下色素ノ新生

此症ハ天藍桔梗色或ハ青黑色或ハ暗黒ノ線
點ヲ生シ或ハ其物斑點狀ヲ顯シ斑中紫黒ノ
脉管ヲ通シ其生スル所ハ強膜ニシテ小腹多
血甚タシキ人或ハ體中色素増太ナル人此症
ヲ患ヒ易シ蓋シ結膜焮衝ニ罹リ其血溶崩シ
テ以テ是レヲ生ス然レモ人は是レヲ患ルトス
ナク只牛馬ニ於テ多ク見ル所ノ一症トス
〔辛〕 角膜結膜曇暗
角膜ノ結膜焮衝ヲ患ル者百人ニシテ五十人
ハ此症ヲ患ル者ナリ

結膜下ニ直チニ生スル症ハ半ハ透明ニシテ
或ハ霧ノ如ク或ハ烟ノ如ク或ハ雲ノ如シ其
色多クハ灰色ニシテ點配スルカ如ク或ハ塗
抹スルカ如キアリ凡ソ其形狀ニ隨テ名ヲ異
ニス諭ヘハ霧翳雲翳ノ如シ是レ多クハ其中
心厚クシテ周圍ニ至ルニ及テ漸ク消散ス小
斑ヲ顯ス者ノミ其分界正シ稀レハ角膜ノ
全面ヲ被覆スル者アリ脉管渉ラスシテ恰モ
角膜實質ノ如シ然レモ積年ノ斑點ニ至テハ
終ニ脉管是レニ入ル

此症ノ鑑定甚ク難シ。動モスレハ角膜裏ノ層
面^{○デツセ}ニド膜ノ曇暗ト錯誤シ易シ。而ノ其誤リ
易キ者ハ、角膜實質、水樣液膜、水樣液、硝子體、曇
暗ニ錯誤シ易シ。

其一 結膜曇暗ト、角膜曇暗トノ辨別ハ、角膜

曇暗篇ニ於テ、是レヲ論スヘシ。

其二 雲翳ヲ、虚性潰瘍^{セリニ論}ニ錯誤シ易シ。
又眼ヲ傍側ヨリ斜メニ診スレハ、是レヲ辨ス
ヘシ。

其三 瞳孔正中ノ斑翳ハ、灰白内障翳ニ錯誤易

シ。又タ眼ヲ傍側ヨリ斜メニ診スレハ、著シク
其異ナルヲ辨シ得ヘシ。

其四 角膜結膜ノ曇暗ノ、猶炊衝ヲ合併シア
ルカ、否ラサルカヲ鑑定スル^一、或ヒハ又ク難
キ^一アリ。若シ今尚ヲ炊衝存スレハ、結膜混濁
ニシテ勢ナク、少シク腫脹シ、無數至細ノ脉管
分歧シテ、曇暗中ニ錯綜ス。若シ炊衝已ニ消ス
ル者ハ、結膜滑澤ニシテ腫脹セズ、脉管アルモ
其色黯黒ナリ。積年曇暗ハ、結膜炊衝諸症、多ク
ハ消散スル者ナリ。

其五 曇暗視力ヲ碍ク、瞳孔正當ノ角膜ニ曇
暗ヲ生シ、其度著シカラサル者ハ、病者兩眼ヲ
閤ケハ、物ヲ透明ノ霧靄中ニ視ルカ如シ、若シ
健康眼ヲ閉ツレハ、暗霧黑點ノ目前ニアルヲ
視ル、若シ瞳孔正當ノ角膜曇暗、其色暗黒ナレ
ハ、清明ノ天氣ト雖モ、物ヲ視ルコト能ハス、略々
盲ニ似タリ、是レ光輝ノ瞳孔中ニ射入シ難キ
ヲ以テナリ、若シ陰影中ニ在リ、或ハ瞳孔散大
スル藥石ヲ用ユレハ、曇暗ノ間隙ヨリ、光輝ノ
網膜ニ達スルヲ以テ、微シク物ヲ視得ヘシ、故

ニ諸多ノ眼科醫士云ク、此ノ如キ症ニハ、瞳孔
漸クニ位置ヲ變シテ、曇暗ノ左右ニ偏リ、斜眼
ヲ致スト云フ、若シ角膜ノ過半、曇暗ヲ生スル
者ハ、諸物ノ半ヲ視得ヘシ、凡ソ近視眼、人此曇
暗ヲ生スレハ、遠視眼ノ人ヨリ患ヒヲ生スル
コト多シ

其六 角膜、水晶體、或ハ水晶囊ノ曇暗、其部ニ
感應ヲ致シ、滑澤光輝アル者明月、燭火ヲ視ル
ニ、其物ニツ、或ハ數箇トナリテ見ユ、若シ角膜
中央ノ曇暗、瞳孔ヨリ小ナレハ、視軸ニ入ル所

ノ者ヲシテ明了ナラサシム、殊ニ黄色ノ輪
角ヲ物像ノ近傍ニ現ハス、若シ角膜ノ傍側或
ハ上下ニ曇暗ヲ殘シ、其斑瞳孔ノ上部ヲ外ツ
ルレハ、物ヲ見ルノ障碍ハ、既ニ上ニ記スルカ
如シ、若シ曇暗瞳孔ヲ被覆シ、其實透明ナレハ、
物像ヲ蒙霧中ニ視ルカ如シ、若シ透明ナラサ
レハ、物像ヲ辨シ難シ、以上論スル所ノ者ハ、皆
實驗ニ由テ證スル所ナリ、此結膜曇暗ハ、角膜
曇暗ノ如ク、潰瘍化膿ニ由テ蜂窠織中ニ成形
物ヲ生スルニ因ル、而シテ其ノ形チヲ成スハ、本

位ノ組織ヨリハ、其ノ形跡廣大ニシテ、其實透
明ナラス、凡テ百器組織ノ透明ト、眼ノ組織ノ
透明ナルハ、小分子、親和ノ調理ニ由ッテ然ル
ナリ、若シ其調理ヲ變スルキハ、即チ透明ヲ失
フ、

此以テ透明ヲ主ル器ノ炊衝ハ、成形滲出物ヲ
魚併シテ、即チ曇暗ノ原因トナル、此成形滲出
ハ、炊衝ヲ微糸血管ノ末端、若シクハ邊緣ニ受
ケ、是レヨリ始マルキニハ、炊衝ナクシテ滲出
ヲ致シ、以テ曇暗ヲ變出スルアリ、

其七

結膜枯燥、及結膜剥脫

一名給養不足

結膜表皮ノ如ク灰白混濁トナリテ、或ハ剥脫シ、或ハ萎凋ス、其部ノ脉管減却シ、或ハ全ク消亡シテ枯燥シ、粘膜ト淚核トノ泌別廢ス、病度輕キ者ハ、或ハ角膜ノ結膜ニノ患エ、其重キ者ハ、結膜ノ全面ニ病ム、紅彩、瞳孔ニ遮膜ヲ生スル者アリ、或ハ平常ナル者アリ、其劇シキ者ハ、角膜萎凋シテ、半月狀ニ浮泳スル者アリ、淚阜、淚點消エテ見ヘ難シ、此病多クハ眼瞼内反ヲ兼ス、又眼瞼結膜ト眼球結膜ト愈合スルヲ魚子、最重キ者ハ、角膜

葡萄腫、其他慢性病ヲ併發シ、其眼濛昧シテ全ク

物像ヲ辨シ難シ、病理解剖學ノ巧者ト雖、此病

ノ新生ヲ未タ知リ難シトス、恐ラクハ慢性燃衝

殊ニ淋性燃衝ニ繼發シ、始メハ結膜甚シク軟化

シ、其一部硬結シテ、脉管閉チ、以テ結膜萎凋シテ、

堅硬トナル者ノ如シ、又淚管閉塞スレハ、此ノ如

キ症ヲ發ス、或ハ結膜ノ一部ニ、此病ヲ生スル者

アリ、角膜邊緣ヲ環リ、或ハ角膜ノ如シ、若シ眼球突出シ

テ、眼瞼是ヲ被覆スルヲ能ハサル所ハ、外氣ノ感

入ニ由テ、慢性燃衝ヲ生出シ、以テ此病ヲ致ス

アリ。然レ此ノ如キ燃衝、潰瘍ヲ兼併スル際ハ、粘膜乾燥セス、甚タ潤フテ膿ヲ泌別ス。

其ハ 眼瞼内反

眼瞼ノ軟骨、眼球ニ向テ反轉シ、睫毛ヲ以テ眼球ヲ突キ、乃チ眼球刺衝セラレテ、慢性惡燃衝ヲ變出シ、是レカタメニ角膜曇暗トナル。若シクハ垂簾瞤ヲ生出シ易シ。此病兩眼瞼ヲ同時ニ侵ス。アリ、其慢性腺樣眼燃衝ニ起因スル者ハ、頗ル下瞼ヲ侵ス、是レヲ區別スレハ左ノ如シ。

天 痙攣性内反

此病ハ眼燃衝久シク羞明ヲ併發シ、若シクハ眼瞼痙攣ヲ併發スル者ヨリ生ス。眼ノ輪筋兼子テ短縮シ、眼瞼ヲ縮小ス、蓋シ眼瞼提舉筋ハ、漸ク弛緩シテ遂ニ全ク其機能ヲ失フ。

地 麻痺性内反

結膜燃衝年ヲ經テ愈エサレハ、其膜麻痺シテ、収縮萎凋ス、乃チ是レヨリ眼瞼短縮シ、以テ其内反ヲ致ス。

人 成形内反

眼瞼結膜ノ潰瘍及ヒ眼瞼邊緣ノ化膿治シテ

其癰痕胬胙狀トナリ。或ハ収縮スレハ。是レカタメニ眼瞼短縮シテ内ニ向ヒ反轉スルナリ。此症ハ癰痕ヲ遺スヲ以テ辨知ニ易シ。

其九 眼瞼外反

此症既ニ眼瞼外皮焮衝ノ條下ニ論說セリ。結膜焮衝ニ由テ起ル所ノ繼發症ハ乃チ左ノ如シ

イ 膜様焮衝外反

此症或ハ眼瞼結膜潰爛ノ繼發症トナリ顯レテ上瞼或ハ下瞼ニ起リ廣ク蔓延ス。此潰爛着シク眼瞼ヲ荒蕪シ。以テ膿瘍ヲ生シ。其邊緣赤

クシテ痛少ナリ。微シク觸ル、モ出血シ。時アリテハ萎縮シ。時アリテハ廣大ス。若シ攝生ヲ怠リ。治療宜ヲ得サレハ。漸ク蔓延シテ堅硬トナル。顯微鏡ニテ是レヲ見レハ。其荒敗ノ所肉芽ノ如シ。

ロ 老人外反

惡液質ノ老人ニ發スル其原因ハ。慢性焮衝及ニ眼瞼弛緩殊ニ眼瞼中間鞅帶弛緩ノ繼發症トナリ生ス。特ニ下瞼ニノミ生ス。結膜始メハ弛緩シ。皺紋ヲナシ。帶黃赤色ニシテ。靜脈腎張

シ終リニハ外傷感入スルヲ以テ、胨狀若クハ肉芽狀ニ變ス。

ハ他因ニ由ル外反

或ハ肉様潰爛ニ由リ、或ハ眼瞼内面ニ瘤ヲ生シ、以テ眼瞼外方ニ反卷スレハ、乃チ外反ヲ致ス。

二 一部外反

多クハ下瞼ノ内眥、鼻ニ近キ所ニ於テ生ス、則チ眼瞼靱帶ヲ損敗スル瘍ノ繼發症トナルナリ。

豫後

原因ニ從テ吉凶アリ。器械様、舍密様ノ外傷、其勢劇シカラサル者ニ由テ起ル者ハ、通例速ニ治シテ害ヲ殘サス。然レ凡體中ニ宿スル、全身ノ病原ニ由テ生スル者ハ、治療宜シク、攝生モ亦法ニ適フト雖凡、經過甚ク緩慢ニシテ、一旦治スト雖凡、動モスレハ再感ノ患ヒアリ。

角膜ノ結膜嫩衝ハ、動モスレハ視力ノ障碍ヲ遺ス。蓋シ眼瞼、結膜トノ際ニ、反對交感ノ機能起リテ、此兩器互ニ病ヲ増減ス、是レ豫後ヲ論スルニ

至テ意ヲ注クノ一事行トス。

尿管廣大ハ、小壯ノ輩若シクハ新發シテ日ヲ經サル者ハ、制伏シ得ヘシ、殊ニ其原因ヲ去レハ然リトス。

無簾翳ハ、治シ難シ、攻劇ノ劑ヲ要ス。

眼球結膜潰瘍ハ、速ニ治シ易シ、其深處ニ在ル者ハ漸ヲ以テ治ス、而メ多クハ不治ノ曇暗ヲ遺ス、其翳ハ角膜ニ在テ多小著シク年ヲ經テ其痕跡減ス、然レハ角膜ヲ穿孔シテ、内器ヲ脱セシメ、角膜ノ邊緣ニ是レヲ致ス者ハ、大ニ危カラスト雖

凡、瞳孔正中ナレハ、視力ノ障礙ヲ致ス、角膜組織ノ潰瘍ハ吉ナラス、幼壯康健ノ輩ハ、其瘍速ニ治スルト雖凡、惡液質ノ輩ニ在テハ、其性緩慢ニシテ、年ヲ歷ルニ非レハ治セス。

結膜軟化ハ、眼球結膜潰瘍ニ同シ、

結膜ノ水泡ハ、通例破レ易ク、稀レニハ其蓄物ヲ吸收シ盡スヲアリ、

結膜ノ膿瘡ハ、危シトセス、角膜ノ結膜ニ生スルハ稍危シ、深痕ヲ遺ス、結膜瘀衝ノ荒敗ヲ兼ヌル者ハ、常ニ劇甚瘀衝ノ症アリテ、危險ノ繼發症ニ

轉スル者ナリ。
結膜下ノ蜂窠織中ニ、血水ノ滲出スル者、結膜肉芽ノ角膜ニ及ハサル者ハ危カラス、然レモ再感ノ患ヒアリ。
結膜恣肉、膿汁泌別ヲ兼併スル者、若シクハ顆粒状結膜焮衝ヲ合併スル者ハ、常ニ頑固ノ症ナリ、經過緩慢ニシテ、經久ノ治法ニ非レハ治セス、ポリーペン、贅肉、肉腫、及ヒ結節腫、軟骨腫ハ、危険トセス、然レモ切斷スルニ非レハ治セス、
眼翼モ、亦タ切除スルニ非レハ治セス、

眼瞼、眼球愈合ハ不治トス、殊ニ上瞼ニ在ル者ハ全ク治セス、下瞼ニアル者ハ治シ難シトス、
結膜下色素ノ新生ハ、危険ナラス、然レモ不治ナリ、
角膜ノ結膜曇暗ハ、焮衝ノ症状顯ル、間ハ治スヘシ、然レモ焮衝ノ繼發症トナリテ、特發スル者ハ難治トス、殊ニ經年ナレハ益々然リトス、幼壯ノ者ニ生スル曇暗ハ治セス、年ヲ經レハ自ラ治スヘシ、
結膜枯燥剥脫ハ不治トス、

眼瞼内反ハ、筋肉短縮ニ由ル者ハ、眼ノ輪筋ヲ切斷スレハ治ス。然レハ眼瞼邊緣ノ愈合、及ヒ眼瞼醜痕殊ニ結膜萎縮ニ由テ、来ル内反ハ不治トス。眼瞼外反ハ、原因トナル疾病ニ應スル治療ヲ得レハ、從テ愈ユヘシ。然ラサル者ハ是レニ反ス。

治法

焮衝ヲ勉メテ速ニ制シ、血脈管ノ充實スル者ハ、是レヲ虚スルニアリ。熱アル者ハ是レヲ制シ、神經ノ知覺亢進スル者ハ、是レヲ挫スルニアリ。

藥劑

有力ノ防焮法、焮衝總論ニ於テ、既ニ舉ル所ノ者、是レナリ。殊ニ寒菴法、緊要トス下泄藥是レナリ。

轉歸療法

分解法、總論焮衝症條下ニ舉ル所ノ者ヲ參考スヘシ。

其十 結膜恣肉、濃汁泌別ヲ兼ル者、若シクハ

顆粒狀、結膜焮衝ヲ兼ヌル者。

假膜ヲ生スル者ニシテ、特異效アル藥ヲ以テ、是レヲ制スル能ハサル者ハ、先ツ血積ヲ制シ、脈管充實スレハ、蟬針角法ヲ項ニ施シ、結膜ヲ亂刺シ、

誘導ノタメニ下劑ヲ行フ。猶誘導ニ刺絡ヲ反復
ニ行フテ效アルヲアリ。實症若シクハ強壯ノ人
ニ在テハ刺絡假死ヲ生スルヲ見テ止ムヘシ。是
レニ由テ或ハ眼ヲ保全スヘシ。晚期ニハ眼ニ近
キ所ニ於テ瀉血ヲ行フヘカラス。孩兒ニハ水蛭
一箇ツ、ヲ兩顳顬ニ屢貼スルヲ良トス。其後寒
瘡法洗濯法ヲ行フテ其焮衝ト生機ノ旺盛スル
トノ勢ヲ減却スヘシ。内服ニハ大量ノ甘永ヲ下
劑トナシ用ヒテ水瀉ヲ致スニ及フヘシ。又眼圍
ニ水銀膏ヲ塗入スヘシ。

焮衝ノ勢減スルノ後ハ其原因トナル惡液質ヲ
治スルニアリ。其諸症全ク去リテ再ヒ發セサル
ヲ見テ始メテ藥劑ヲ止ムヘシ。殊ニ注意スヘキ
ハ眼ヨリ泌別スル所ノ液ニアリ。若シ泌別液出
レハ速ニ是レヲ拭ヒ去リ常ニ勉メテ微溫湯或
ハ是レニ乳汁ヲ和スル者ニテ洗滌スヘシ。是レ
等ノ諸法ニテ病症殊ニ其劇勢減却スレハ神效
石ニ芙蓉丁幾ヲ加工點滴スヘシ。孩兒ニハホ
ロール水ニ莨菪水ヲ滴入シテ奇效アリ。若シ此
ニ至テ肉芽消散セスシテ突起スレハ其處ヲ剪

除シ其餘ハ消酸銀ヲ塗貼シ。是レヲ潰爛スヘシ。
但シ消酸銀ヲ塗貼スルノ後ハ、不斷寒暑法ヲ行
フヘシ。
若シ肉芽症、焮衝ノ初起、其肉芽ノ能ク見得ヘキ
片ハ、消酸銀ヲ猛ニ點シテ、是レヲ腐蝕セシメ、眼
ヲ保全スルコトアリ。蓋シ此法ヲ行ヘハ、速ニ眼ヲ
洗濯スルハ、却テ宜シキ所ニ非ス。
肉芽症ト、共ニ眼焮衝ヲ生スレハ、亂刺ヲ行フヘ
シ。若シ角膜將サニ敗レントスルノ危険症ヲ生
スル者ハ、消酸銀ニ从ヨリ六分ヲ半ヲ溜水ニ

和シ、是レヲ注クヲ良トス。則チ眼ヲ清潔ニシテ、
泌別液ヲ制スヘシ。

内藥ハ、劇痛アル者ニハ、阿芙蓉モルヒ子、殊ニ規

危捏ヲ加エテ與エ、且ツ麻酔藥ヲ眼圍ニ塗入ス

ヘシ。

孩兒ニ主治トナスヘキ者ハ、先ツ新鮮氣中ニ居

ラシメ、乳母ノ乳ヲ撰ミ、其淡泊ナル者ヲ吸ワシ

メ、微温湯ニテ眼中ヲ絶エス洗ヒ、或ハ射注而メ三小

時ヨリ四小時毎ニ、消酸銀五分ヨリ十分ヲ溜水

一斗ニ和セル者ヲ射注スヘシ。此法ニ由テ稍佳

況ニ赴ケハ消酸銀ヲ稀メテ五氏ニ至ルヘシ蓋
シ射注法ハ夜間モ行ハスニハ非ス若シ熈衝劇
甚ニハ他藥ノ救ヒ得ヘキ所ニ非ルノ景況アラ
ハ消酸銀ヲ以テ直チニ肉芽上ニ輕塗シ其後速
ニ鹽酸二三弓水二十弓ノ和劑ヲ以テ是レヲ洗
濯スヘシ乃チ剩餘ノ銀ハ鹽ニ和シテ白色ノ銀
鹽トナリテ脫離ス
淋症ハ則チ粘液流出ノ義ニテ眼ノ淋ナリ角膜
猛勢熈衝ニ應スル有力ノ治法ニ非レハ治ニ難
ニ且ツ食量ヲ嚴禁シ暗室ニ永ク安息セシメ上

ニ論スル孩兒ノ治法ヲ撮テ局處ニ行フヘシ且
此ニ注意スヘキハ宿疾ノ淋病ヲ治スヘカラス
若シ卒然トシテ肉攻スレハ再ヒ眼ヲ破ル
其十一 ポリトペン贅肉肉腫
防熈法誘導法及ヒ吸收機ヲ奮發スル法ヲ行ヒ
並ニ承劑沃陣劑其原惡液病ノ者ハ悉篤滿煎ヲ
内服スヘシ多クハ其贅肉ヲ截除シテ其創痕ニ
神效石ヲ塗貼シ直チニ二三日ノ間ハ寒瘃法ヲ
行フヘシ

其十二 結節腫及ヒ軟骨腫

法ニ由テ此治法ヲ論スレハ、全身ヲ治スルノ處方ヲ要ス、局處ニハ甘汞ヲ吹コミ、其他沃度加里水、消酸銀水ヲ行フヘシ、是レニテモ治セサレハ、剪除スルニ如カス、此法ヲ行フ後ハ、灌腸法下劑應ス

其十三 眼翼

手術ニ非サレハ治セズ、殊ニ舊年ノ者ニ於テハ然リトス、然レモ新發ノ者ハ、解凝藥、吸收藥ヲ外敷シテ、其效ノ當否ヲ試ムヘシ、

其十四 眼瞼眼球愈合

是レモ亦手術ニ非サレハ醫スヘカラス、其十五 結膜曇暗

是レヲ治スルニハ、先ツ原因治法ヲ要ス、其法ハ其原因ト併發スル所ノ疾病ヲ制シテ、是レヲ治スルニアリ、其次ニハ、燠衡全ク退クノ後、斑翳ヲ消散セシムルノ法ヲ行フヘシ、眼圍ニ水銀膏ヲ塗入シテ、新生未タ目ヲ經サル者ニハ效アリ、然レモ我ナス所ハ、原因治法ヲ以テ主トナス、曇暗ノ經過種類、輕重ノ度、及ヒ眼ノ知覺機増減ノ度ニ應シテ、局處藥ヲ定ムヘシ、法ヲ以テ論スレハ、

解凝ノ眼水其力微ナル者ヨリ漸ク猛烈ナル者
ニ昇ルヘシ又諸藥ヲ鑒考シテ行フテ效アリ
熈衝腫脹ニ基ク曇暗ハ神驗水單寧劑亜鉛花力
トミユムヲ行エハ通例速ニ消散ス
其十六 角膜水晶體及ヒ囊曇暗
有力ノ解凝劑應ス譬ヘハ外永溜水一或ハ
是レニ老利兒水ヲ加エテ佳ナリ沃度如里ニハ
溜水一ヲ溶解スル者甘永極研末トシ筆ニテ
眼中ニ散敷シ或ハ是レヲ吹コムヘシ
晚期ニハ單寧劑神效石應ス
經久ニシテ堅硬ナルヲ韌ノ如キ曇暗ニハ又解

凝劑ノ酷烈ナル者應ス譬エハ礮砂花輕キ腐蝕
劑越氣等ナリ而メ解凝劑ハ持長シテ用ユルニ
非サレハ效ナシ不治曇暗瞳孔正當ニアル者ハ
角膜健全ナレハ術ヲ以テ瞳孔ヲ他方ニ開クノ
一方アルノミ凡ソ解凝藥ヲ行フ片ニ當テハ同
時ニ沃陣礮砂遠志等ヲ内服セシメ其性頑麻ナ
ル者ニハ猶ハレリヤナヲ加用スヘシ

其十七 結膜枯燥及ヒ結膜剝脫

是レ腺樣惡液質原因トナルニ由ル始ノ其原因
ヲ猛ニ制シ而メ後チ赤降永膏ヲ角膜ニ貼シ且

鑛泉浴ヲ行フヘシ。若シ已ニ久年ヲ經ル者ハ、此
ノ如ク效アルヲ少シ。故ニ顯症ニ應スル藥劑ヲ
以テ是レニ處スヘシ。
其十八 眼瞼内反及ヒ外反。
此兩症ハ、唯外科術ヲ以テ、其懊惱症ヲ止ムヘシ。
内反ニハ殊ニ效アリ。但シスコルヒヤセノ初起
ニ在テハ、眼瞼組織或ハ麻痺シ、或ハ弛緩ニ出ル
ハ、揮發精液ノ洗濯法及ヒ越氣效アリ。
知覺亢進ニ依ル者ハ、鎮痙藥外反ノタメニ粘膜
剥脫スル者ハ、左ノ方效アリ。

神效石 四八

赤降汞 二八

舍電花謨阿芙蓉液 六滴

單膏 一ヲ

右調勻、眼瞼ニ輕塗ス。老年ノ外反ニハ殊ニ效
アリ。

眼科摘要卷之四了

